

【工学研究科電気工学専攻】

修了認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

1. 修士課程においては、電気工学分野における高い専門性と倫理観、国際的視野を持った研究者・技術者・設計者等の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、電気工学専攻が定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文の審査並びに最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（工学）の学位を授与する。
 - (1) 電気工学の各専門分野に応じた高度な専門知識
 - (2) 電気工学の各専門分野に応じた研究能力
 - (3) 電気工学専攻において修得した電気工学分野における高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、論理的・批判的に思考し、自ら課題を発見・設定し、解決する能力
 - (4) 電気工学専攻において修得した電気工学分野における高度な専門知識・研究能力と教養をもとに、国際的な視野を持って活躍できる能力
2. 博士後期課程においては、電気工学分野における創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、あらゆる研究・教育機関の中核を担う研究者等の養成を目標とし、所定の期間在学し、以下の知識・能力を身に付け、電気工学専攻が定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、試験、学力確認のための試問に合格した学生に対して修了を認定し、博士（工学）の学位を授与する。
 - (1) 電気工学の各専門分野に応じた極めて高度な専門知識
 - (2) 電気工学の各専門分野について研究者として自立して研究活動を行う能力
 - (3) 電気工学専攻において修得した各専門分野における極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的に解決し、さらに論理的な思考に基づいて各専門分野において新たな知見を与えることができる能力
 - (4) 電気工学専攻において修得した各専門分野における極めて高度な専門知識や研究能力をもとに、国際的視野を持ち指導者として活躍できる能力
 - (5) 独創的な研究によって従来 of 学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与できる能力

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 修士課程においては、学士課程で養った教養、基礎学力、専門知識を基礎として、さらに「専門科目」「一般教養科目」「修士研究」により、広い視野を持つとともにより精深な学識を修められるよう、工学研究科ならびに電気工学専攻が定める人材育成の目的を達成するための教育課程を編成する。
 - (1) 「専門科目」では、電気工学分野におけるより高度な専門的知識を身に付けるため、特論、実習等の授業科目を重点的・効果的に配置する。
 - (2) 「一般教養科目」では、幅広くかつ深い学識を涵養する授業科目、コミュニケーション能力・倫理観・国際性等を養う授業科目を配置する。
 - (3) 「修士研究」では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、研究者・技術者・設計者等として国内外で国際的な視野を持って活躍できる能力を育成する。
 - (4) 他研究科・他専攻の授業科目や他大学大学院の授業科目の履修を一部可能とし、学際的で幅広い分野の学習や異分野交流の機会を提供する。
2. 博士後期課程においては、修士課程で養った電気工学分野における高度で幅広い専門的知識や研究開発能力を基礎として、さらに「博士研究」により工学研究科ならびに電気工学専攻が定める人材育成の目的を達成するための教育課程を編成する。
 - (1) 「博士研究」では、国内外の文献の調査、指導教員等研究者との議論、国内外の学会等での発表、学術論文の発表等を行うことを通して、自身の研究成果を正確かつ効果的に表現する力、高度な専門性を要する研究開発力、及び課題解決力を高め、専門分野に関して自立した研究者・技術者・設計者等として、国内外で国際的な視野を持って活躍できる高い能力を育成する。
 - (2) 「一般教養科目」では、自立した研究者・技術者・設計者等として研究開発を遂行していくために必要な深い学識と汎用的能力を涵養する授業科目を配置する。

入学者受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、本学の教育研究理念のもと、

1. 修士課程においては、学士課程で修得した基礎学力と幅広い教養をもとに、エネルギーシステム、通信・情報ネットワーク、スマートシステム・スマートエレクトロニクス、データエンジニアリングなどの電気工学分野で自ら課題を発見し解決する研究意欲のある人、高度の専門性を要する研究者・技術者・設計者等に必要能力の修得を目指す人、主体的に多様な人々と協働して研究を行う意欲のある人
2. 博士後期課程においては、修士課程までに修得した専門知識と研究能力をもとに、自立して創造的研究を行う意欲のある人
3. 専門知識や教養をもとに、国内外で国際的な視野を持って活躍しようとする意欲のある人を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

（一般入学試験）

専攻の特性に見合う専門知識、英語力、思考力及び表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、修士課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目）、外部機関による英語能力試験の成績、面接により選抜、博士後期課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、修士論文についての口頭試問等により選抜する。

（推薦入学試験）

修士課程において、電気工学専攻の特性に見合う専門知識、英語力、思考力及び表現力をもち、自ら研究を行う態度のある人を、書類審査、面接等により選抜する。

（社会人特別選抜、外国人留学生入学試験）

研究機関又は企業等で得た経験、学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた知識と能力を持つ人を、修士課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、面接により選抜、博士後期課程においては、書類審査、筆記試験（専門科目、外国語）、修士論文等についての口頭試問により選抜する。